

水稲育苗箱専用長期持続型殺虫殺菌剤



スピノサド	0.75%
フィプロニル (PRTR・1種)	1.0%
プロベナゾール	24.0%
鉱物質微粉等	74.25%

毒性 普通
 有効年限 3年
 包装 1kg × 12袋
 農林水産省登録 第 23598号

●特長

1. 育苗箱施用で、水稲初期・中期の主要病害虫であるいもち病、イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、フタオビコヤガ、ニカメイチュウ、コブノメイガ等を同時防除できます。
2. 殺虫メカニズムの異なるスピノサドとフィプロニルが組み合わせられることでユニークな相乗効果が発揮されます。

●適用病害虫および使用方法

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
稲 (箱育苗)	いもち病 イネドロオイムシ イネミズゾウムシ ニカメイチュウ コブノメイガ ウンカ類	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g	移植3日前～ 移植当日	1回	育苗箱の苗の上から 均一に散布する
	フタオビコヤガ		緑化期～ 移植当日		



スピノサドを含む 農薬の総使用回数	フィプロニルを含む 農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む 農薬の総使用回数
1回	1回	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)

(平成28年7月6日現在の登録内容)

●効果・薬害等の注意

- 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機にかけて移植する。
- 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などでは薬害を生ずるおそれがあるので、必ず健苗に使用する。
- 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害を生ずる場合もあるので、散布直前の灌水はさける。
- 処理苗を移植する本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後に田面が露出しないよう注意する。
- 処理苗を本田に移植した後は、そのまま湛水状態(湛水深3～5cm)を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意する。
- 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田での使用はさける。
- 移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさける。
- 本剤は処理を誤ると、生育初期の葉の黄化や生育遅延などの薬害を生ずるので、所定の使用時期、使用方法を守る。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

●安全使用上の注意

- 誤食などのないよう注意する。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせる。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
- 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用する。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣類を交換する。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯する。
- かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさける。

- 夏期高温時は使用しない。
- 漏出時は、保護具を着用し掃き取り回収する。
- 移送取扱いは、ていねいに行う。

治 療 法…フィプロニル剤にはフェノバルビタール製剤の投与が有効(動物実験で報告)。

魚毒性等…使用した苗は養魚田では使用しない(魚類)。

散布後は水管理に注意。

保 管…密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、冷涼・乾燥した所。

火災時の…火災時は適切な保護具を着用し、水・消火剤で消火に努める。
措置